

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590800019		
法人名	医療法人隆徳会		
事業所名	グループホームあさひ		
所在地	宮崎県西都市旭1丁目50番地		
自己評価作成日	平成30年10月5日	評価結果市町村受理日	平成30年12月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kan=true&JigyosyoCd=4590800019-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成30年11月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日本家屋調の自宅のような環境の中、利用者也庭の散歩をしたり、草木や花に触れ合い四季を感じてもらうことができる。自宅での慣れ親しんだ環境で生活が送れるように本人のできることや家事手伝い等で日々の楽しみや生きがいを見つけ楽しく過ごすことができるよう支援しています。四季折々の行事では献立に工夫を行い食べる楽しみを持てるよう支援しています。利用者一人ひとりの抱えている課題を職員全員で検討し安心して過せるよう努めて支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療機関が母体であり、医療と介護の緊密な連携を図っている。管理者と職員は、利用者一人ひとりが出来ることを見出し、意欲の向上につながるよう工夫を行うなど、機能低下防止を意識した介護に取り組んでいる。困難事例は管理者、職員全員で、共有するよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で理念に基づき利用者の尊厳とその人らしい生活が送れるように実践に努めている。	利用者が心地よく暮らせるように職員全員で考えた理念を掲げ、管理者を中心に日々の支援につなげている。今後、さらに明確な目標を設定した理念の見直しに取り組む予定である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流がなかなかできない中、区長や民生委員の方に行事等に参加をさせていただいて交流を図っている。また、地域内のスーパーに出かけたり、散歩などで声をかけていただいている。	自治会に加入しており、地域の行事の案内がある。敬老会に参加した時や、病院受診の際にも地域とのつながりを実感しながら暮らしていけるように取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて区長や民生委員の方に認知症の対応や施設での実践などを話し地域の方にも情報が得られるよう努めている。施設見学に来られた方にも認知症の方の相談や支援の方法を提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での情報や意見、アドバイスは施設にて職員会議で検討して、利用者の支援や業務上のサービスの向上に活かしている。	ホームの課題や事故等について報告し、委員もそれぞれが意見を述べ、双方向的な会議となるよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議での情報交換や電話連絡等、文書などで情報の共有を行えている。必要時には市町村担当者に相談に出向き意見を聞いたりすることで協力関係を築いている。	管理者は、ホームの空き状況や課題等があればすぐに連絡、相談しており、担当者からもその都度アドバイスや情報提供を受けるなど関係構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議や勉強会で身体拘束は理解できている。支援の方法や見守りの徹底で身体拘束は行っていないが外門は不審者の侵入を防ぐ為施錠することがある。	職員は身体拘束の弊害について理解している。気になるような態度や言葉遣いがあれば、気づいたときに職員同士で注意しあうようにしている。外門も日中は開錠することに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議でも言葉使いや接遇の話し合いを行っていて、不適切なケアを見かけたら職員間でも注意を行い、防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や職員会議等で学ぶ機会は持ち理解を深めるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する際は、入居前に十分な説明を行い不安や疑問点を尋ね、納得ができた上で契約を行うように図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会等で各利用者の担当と意見や要望を聞く機会を設けている。出された意見、要望は職員会議で検討、利用者の支援、サービスの質の向上に繋げている。	日常の業務の中や面会時、年1回開催している家族会において、利用者や家族の意見や要望を聞き出し、細かな要望等も職員全員で共有し、ケアに反映できるように取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務上の意見や提案、利用者に関することなど常に意見を聞き、職員会議等で検討、運営に反映している。	日ごろから自由に意見を出せる環境が整っており、管理者は必ず運営者へとつなげ、職員にも報告するよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務上のことや利用者も担当性を決め、やりがいや責任のもと向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員1人ひとりの得意なこと苦手なことを把握し、施設外の研修も年間予定で参加の取組を行っている。施設内でもトレーニングを行うように支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同事業所内にグループホームがあり、交流の場を作り意見を聞いたり、グループホーム連絡会での研修や意見交換などを通してサービスの向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族、ご本人より、入所導入事前より、今までの生活歴、病歴、要望、本人の困っていること不安なことに耳を傾け、安心して入所生活が送れるように、ご家族、本人との関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時より、ご家族との困っていることや不安なことに耳を傾け、家族同士の思いや意見も理解し、ご家族との関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時より、ご家族、ご本人の意見や要望、不安を聞くことでその時に何が必要かを見極め、家族、社会資源等のサービスも利用するよう対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族からの情報や利用者の生活歴から趣味や得意なことのカンファレンスを行い、生活の中でできることを行ってもらい、個性や力の発揮ができ一緒に過ごしていけるような関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状態や思いを常に報告し面会の機会や電話で話す機会を作ってもらっている。行事や外出も家族参加をしてもらい本人と家族との絆も大切にするよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまでの暮らしの中での馴染みの方や場所を把握し、家族にも協力をしてもらい外出の機会を作ったり、面会に来ていただいたりして関係が途切れないよう支援している。	家族の協力で外出時に親戚や知人に会いに行ったり、以前から通っていた美容院へも行くなど関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格を把握し、生活の中で親しい関係が作れるように環境の場を提供するよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了して、他施設や病院に入所されても面会に行ったり、経過を見守ったりしている。必要に応じて相談や支援も行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活のなかで状況を把握しながら、本人とも会話を行い思いや意向をくみ取り職員全員で話し合いを行うよう取り組んでいる。	自ら思いや意向を伝える利用者も多いが、言葉数の少ない利用者は、個性や性格を尊重しながら個々のペースに寄り添い、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活歴や家族からの情報から本人の好むことや力を発揮できる事柄を把握し自分らしく暮らしていくよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの日々の過ごし方、心身の状態を毎朝の申し送りや申し送りノートで状況を把握することができるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議やカンファレンスで課題や支援の検討を行い、多方面からの情報を聞き、意見やアイデアを反映し介護計画を作成している。	担当職員を中心に全員でモニタリングを行い、本人や家族の意見も反映した介護計画を6か月毎に作成している。現状に即した計画の見直しも随時行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録、業務日誌、申し送りノートから職員間で情報の共有を行いケアの実践や介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のその場、その時のニーズに応じ、買い物や外出の支援や家族への協力、臨機応変に支援するよう取り組んでいる。訪問看護や他事業とも連携を取り支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方とのふれあいがなかなかできないが散歩やスーパーへの外出時では声かけ等を行ってもらっている。区長や民生委員、ボランティアの方を行事等に参加していただき利用者が楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医の確認を行い、本人、家族の希望を大切にしている。必要な診療や受診も確認を得て適切な診療が受けられるよう支援している。	本人、家族の希望のかかりつけ医の受診を支援している。ホーム協力医以外の受診や他科受診は家族対応を基本としているが、受診結果は関係者全員で情報の共有に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は日常の生活の中で身体状態の観察を行い、状態の変化や異常にも受診を受けられるよう支援している。週1回の訪問看護にも状態の報告を行い、健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は早急に担当看護師、相談員に情報を提供し、本人、家族が不安なく、治療に専念できるように支援している。情報交換や相談に努め、病院関係者と連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期の説明は行っている。早い段階で家族との話し合いを行い、施設でのできることを理解してもらっている。医療機関と連携も図っている。	入居時に指針を示し、説明している。状態の変化に応じて家族や主治医と話し合い、方針を確認し共有している。ホームでできる範囲を超えた場合の医療機関との連携に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は訪問看護や同事業所の医療機関と連携を取り対応している。夜間に急変、事故発生時でもオンコール体制で対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っている。職員全員で避難誘導の体制ができるよう検討している。同事業所とも合同の避難訓練も行い、区長や民生委員の方にも協力をお願いしている。台風や水害の情報時は早急に食料、水の備えも行っている。	訓練は利用者も一緒に参加して行っているが、ホームの構造上、避難経路に高い段差があり、利用者と介護者にとって困難な箇所となっている。また、地域との協力体制の構築には至っていない。	地域の消防団や住民の協力が得られるような取組とともに、安全な避難経路を確保し、利用者を安全に誘導できる体制を早急に整えることを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳と権利を守る為、職員会議で検討したり、研修等の参加を行い、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや環境づくりを行っている。	言葉や声掛けには特に注意を払っている。自己決定を促すような対応を心掛け、待つ介護の大切さを職員全員で共有し支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で、行動や表情を観察することで、洋服や食事で選択できる物を提供し自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先での日課で対応せずに居室で過ごす方、ホールで過ごす方、テレビを観る方、1人ひとりの生活パターンで過ごせるよう本人の希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	担当職員により、家族の協力を得ながら四季の衣替えを行い、本人の好みの洋服を着てもらいおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	四季の材料を使用し季節を味わってもらったり、行事食にも工夫をしたメニューで食べる楽しみを持てるよう支援している。利用者と職員で材料の下準備や片付けも行っている。	調理方法、見た目、味付けなど利用者にとって食事が楽しみな時間となるよう、毎回工夫している。食材の下ごしらえやテーブル拭き等、本人の得意とすることを生かせるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量チェックから1人ひとりの食べる量や好みを把握し、栄養、水分の確保ができるように食事量、調理方、飲み物など一人ひとりに応じた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食の口腔ケアができない方もいるが夕食後は洗面所へ誘導し指示や助言、介助で口腔ケアを行っている。義歯も洗浄薬を使用し清潔保持を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄パターンを把握し、汚染がないように声かけや誘導を行い、トイレにて排泄ができるよう支援を行っている。	チェック表の活用で、トイレでの排せつが継続できるよう支援している。ほとんどの利用者がパンツ着用で生活しており、利用者の自信の回復につながるよう支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促すように毎朝の牛乳や多めの水分摂取、食材の工夫や運動で体操や歩行練習等で予防に取り組んでいる。手づくりのヨーグルトも食事で提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴にて入浴拒否の方もいる為、曜日や時間をずらしたりして無理強いせず、声かけに工夫を行い、個々にそった支援をしている。	入浴を拒む利用者にはさまざまな工夫により無理のない入浴の支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、活動性がない方は夜間の不眠も見られる。個々の生活リズムで安心して気持ちよく眠ることができるよう日中の過ごし方や居室での環境に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診、服薬情報を申し送りや受診ノートで共有し、薬の目的や副作用、用量、用法も理解しており誤薬防止に努め、状況の変化の確認に取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりの得意なこと好きなことで力を生かせるような施設内の掃除や調理の手伝い等で役割を持ってもらい利用者が自宅にいる時のように過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	年に数回、ドライブや遠足に出かけている。買い物に行ったり散歩等の外出の機会も作っている。家族にも協力してもらい特別な場所や懐かしい場所にも出かけられるよう支援している。	食材の買い物に職員と一緒に出かけたり、ドライブや花見、地域のイベント等には、利用者全員と家族も一緒に出かけるなど外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者によって、お金を所持することで安心される。職員はお金を持つことの大切さを理解している。買い物に出かけたり、ほしい物も買ってきてあげる等をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	子供達に逢いたい等の希望が強い方は家族や大切な人へ電話を取り次いだりして絆が絶えないよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快や混乱をまねくようなものは排除し、思い出のものや季節を感じられる飾りや花等で居心地よく過ごせる環境をつくるよう工夫している。	玄関やホール、廊下の壁には職員と利用者で制作した季節の貼り絵が飾られている。適所にソファが置かれ、利用者がゆっくり過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	トラブルを避ける為ホールでの座る場所や廊下のソファの設置場所など個々にあった空間を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室では自宅と同じように過ごせるよう馴染みのものや好みのものを持ってきてもらい安心して居心地よく過ごせるよう工夫、支援している。	畳とフローリングの居室があり、広さや造りも異なっていることで、利用者の個性や好みを生かした部屋作りがなされている。動線を考え、家具の配置も一人ひとりに合わせて工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人のできることやわかることを把握し居室内は家具やベッドの配置を考えできるだけ自立した安心して生活が送れるよう工夫している。		